



★八王子中だより★

★学校教育目標 『 大志を抱け ひとみ輝く 八中生 』

～ 賢く 豊かに 遅しく ～

★令和7年10月31日(金)　さいたま市立八王子中学校学校だより 11月号

★HP アドレス <http://hachioji-j.saitama-city.ed.jp/> (生徒の学校生活の様子等をHPにアップしています)

責任と信頼

校長　酒井　和浩



津波は後ろの壁の高さまで届いたそうです

10月24日（金）に実施した創立40周年記念式典では、さいたま市長、教育委員会副教育長、中央区長、その他多くの方のご臨席を賜り、無事開催することができました。この行事を新たなスタートラインとし、生徒の成長にさらに取り組んでまいります。また、10月28日（火）には、2年間取り組んできた防災教育についての研究発表会を多くの参会者をお招きして開催することができました。両行事に参加していただきました皆様に感謝申し上げます。

毎年11月5日は「世界津波の日」です。英語でも「tsunami」と表現するほど日本に関する出来事と捉えがちですが、世界各地で津波被害が発生しており、津波の脅威は世界共通の課題となっているそうです。日本では、東日本大震災が発生した2011年に「津波防災の日」を制定し、全国各地で津波防災訓練や意識啓発の取組を実施しています。

数年前、以前から興味があった釜石市にある「いのちをつなぐ未来館」を訪れました。未来館がある鵜住居町は、東日本大震災時、市内でも被害の大きかった地区で、小学生や中学生は普段から訓練を行っており、より安全な場所を目指すという津波避難に対する意識が高いそうです。また、三陸地方には「津波てんでんこ」という言葉（「津波が来たら、いち早く各自てんでんばらばらに高台に逃げろ」という津波襲来時の避難に関する言葉）があるそうです。この言葉には、「自分のいのちに責任を持つ」という意味もありますが、「災害時に家族と離れていても絶対に避難している」という意味もあるそうです。その意味を家族や地域全員が共通理解しているため、信頼関係や絆が築かれており、このような意識だからこそ、自分が自信をもってすぐに行動に移すことができるのだと思います。普段からしっかりと話し合って信頼関係を築き、自分に責任を持ち、確実に行動できるようにすること、そして、相手を信頼することが大切なのだと感じました。また、津波は時間を待ってくれません。津波が発生した時に「どのように行動すべきか」素早い判断が求められます。もし、自分がひとりの時にどのような災害が起つたらどうするでしょうか。自分で考え、行動する、「エージェンシー」につながるのではないかと思います。実際、津波が起きた際、海岸近くの学校の中学生が小学生と一緒に集団で高台に避難しましたが、被害のすごさを目撃したりにし、急遽さらに高い場所へ避難したそうです。結果は、最初にいた場所は津波の被害に遭い、さらに高台に避難した児童生徒はいのちを落とすことはなかったそうです。

本校の防災教育の研究発表会は終了しましたが、本研究を通して、防災に関する知識や意識の向上はもちろん、地域貢献とエージェンシーの育成という観点からも、大切なことをたくさん学ぶことができました。今後も防災教育からのアプローチも含め、多方面から指導を行い、生徒の育成に努めてまいりたいと思います。保護者及び地域の皆様、今後ともご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。